

RECO2 カーボンリサイクル SPC床材

施工マニュアル

クリック施工 フローティング工法

仕上がりは床材だけでなく、下地、施工環境、施工方法および養生の組合せで決まります。条件が整わない場合は施工を開始せず、施工中に異常を認めた場合はその区画の作業を中止してください。

1. 適用範囲

本マニュアルは、屋内の平床面にクリック式SPC床材をフローティング施工する場合の標準手順に適用します。屋外、壁面、常時水が掛かる場所、導電・帯電防止、耐薬品その他の特殊仕様は、製品別仕様に明示がある場合を除き対象外です。施工前にすべての板材を十分に検品し、欠陥のある板材は施工しないでください。

注意：本製品は防水性がありますが、床材自体に防湿機能はありません。コンクリート下地に施工する場合は、防湿・防水シート（0.15mm厚以上のポリエチレンフィルム防湿シート等）の敷設が必要です。

2. 標準施工フロー

工程	主な確認・作業	次工程へ進む条件
1. 施工前確認	用途、製品、数量、ロット、下地、荷重、温湿度、工程、特殊条件を確認します	仕様と責任範囲が確定していること
2. 受入れ・保管・施工前養生	品番・外観・梱包を確認し、水平保管して現場温度になじませます	破損、反り、結露がないこと
3. 下地検査	水分、平滑性、強度、ひび割れ、汚染、たわみ、既存床の状態を確認します	所定基準を満たしていること
4. 下地補修・清掃	研削、補修、除塵、脱脂、乾燥および再検査を行います	平滑、強固、清浄、乾燥していること
5. 防湿・防水シート敷設	コンクリート・モルタル・セルフレベリング等の鉱物系下地は防湿・耐水シートを敷設し、継ぎ目・端部を仕様どおり処理します	隙間、破れ、しわ、異物がないこと
6. 割付け・仮並べ	施工方向、開始位置、端部寸法、目地ずらし、色柄、見切り位置を確認します	割付けが確定していること
7. クリック施工	スペーサーで床材の伸縮スペースを確保し、短手・長手のクリックを確実に嵌合させます	隙間、段差、ロック不良がないこと
8. 仕上げ・養生	スペーサーを撤去し、見切り・巾木を床材に固定せず施工して保護します	床材の動きが拘束されていないこと
9. 完了検査	外観、目地、端部、伸縮スペース、納まり、清掃、記録を確認します	引渡し可能であること

3. 使用工具・測定器

- ・コンクリート下地の水分測定器 ※ケット科学研究所製 高周波水分計 HI-540/520-2 または同等の測定器
- ・温湿度計、床面温度計、直定規、水平器、メジャー、T定規、墨出し器具
- ・研削機、スクレーパー、集じん機、清掃用具、下地補修用具

- ・卓上丸ノコまたはテーブルソー、直定規、必要に応じた切断・加工工具
- ・汎用タッピングブロック、重めのゴムハンマー、プルバー、スパーサー
- ・製品および下地に適合する防湿・防水シート、継ぎ目処理材
- ・保護手袋、保護眼鏡、防じんマスク、安全靴その他、作業内容やSDSで指定される保護具

4. 施工前確認・材料の受入れ・保管・施工前養生

床施工の不具合の多くは、不十分な下地準備に起因します。不陸や粗い下地は、そのまま仕上げ床に影響します。施工者は、施工前に現場および下地が本書の要求事項を満たしていることを確認してください。

1. 用途、製品、数量、ロット、施工範囲、荷重、工程、見切り位置、床暖房・水廻り等の特殊条件を確認してください。
2. 納品時に品番、色番、数量、ロット、梱包の破損および箱の角の損傷を確認してください。
3. 開梱後、反り、著しい色差、汚れ、表面異常を確認してください。色、仕上げ、光沢および品質は、十分な照明下で確認してください。許容できない場合は、直ちに販売元へ連絡し、交換手配を行ってください。
4. 施工前にすべての製品を検品し、異常のある場合は施工しないでください。
5. 製品入りの箱は平坦な場所へ常に水平に置いてください。縦置きはクリック機構を損傷する可能性があります。直射日光、水濡れ、結露、高温および低温を避け、箱の角を保護してください。
6. 材料を施工48～24時間以上前に、施工場所の温湿度になじませ、材料表面・裏面に結露がないことを確認してください。
7. 施工前・施工中・施工後は、部屋を通常居住時の温度に保ってください。施工時の室温および床面温度は15～29℃とします。過度に高い、または低い室温や床面温度は、製品の膨張や収縮を引き起こし、施工不良を生じる可能性があります。この際生じた欠陥は保証の対象外となりますのでご注意ください。
8. 施工時は2～3箱を同時に開け、各箱から板材を混ぜて使用し、色柄の繰返しを最小化してください。
9. 巾木、入隅材等を必要に応じて取り外し、ドア枠は床材の厚みに合わせて切り欠いてください。施工場所を十分に清掃し、施工中の損傷を防いでください。

5. 施工環境の判定

状態	判定	対応
室温・床面温度が15～29℃で、材料に結露がない	標準施工可	本書の標準手順で施工してください
室温・床面温度が15℃未満または29℃超	施工不可	室内、下地および材料を15～29℃に安定させ、再測定してください
結露、漏水、継続的な湿気上昇がある	施工不可	原因を解消し、十分に乾燥させてから再判定してください
強い直射日光、局所加熱、著しい温度むらがある	条件不適合	直射日光対策をし、温度を均一化してから施工してください
強い通風または施工後の急激な温度変化が予想される	条件不適合	通風と温度を安定させ、伸縮スペース・見切り計画を見直してください
床面に粉じん、切粉、異物が残っている	施工不可	再清掃し、下地と防湿・防水シートに異常がないことを確認してください

使用期間中の環境：施工後は、－18～60℃、相対湿度40～70%を維持してください。これは使用時の許容範囲であり、施工時の15～29℃という条件に代わるものではありません。床材を長時間・継続的な直射日光にさらさないでください。

6. 下地検査

6.1 共通要求事項

- ・すべての下地は、乾燥、清潔、平滑、水平かつ構造的に安定させてください。既存接着剤の残留がなく、動きやたわみがないようにしてください。
- ・下地の平滑度は、3 mにつき4.8 mm以内としてください。
- ・不陸、うねり、段差、欠損、ひび割れ、施工目地、コントロールジョイント、継目、凹み、溝、釘・ビス頭の突出がないようにしてください。
- ・たわみ、振動、床鳴り、パネルの動きがないようにしてください。
- ・既存床材がある場合、浮き、膨れ、剥がれ、柔らかさ、ワックスおよびコーティングがないことを確認してください。
- ・粉化、レイタンス、脆弱層、雨打たれ、エフロレッセンス（白華現象）等がないようにしてください。
- ・ワックス、油脂、塗料、既存接着剤、アスファルト、防腐剤、防蟻剤、インク、マーカー、チョーク、ゴム、洗剤、薬品、シーリング材等を除去してください。
- ・補修材、プライマー、表面強化材等を使用する場合は、完全に硬化・乾燥させ、床材および防湿・防水シートとの適合性を必要に応じて試験施工で確認してください。
- ・下地の種類または安定性を確認できない場合は、標準施工を行わず、原因と適否を確認してください。

6.2 下地水分

コンクリート・モルタル下地は、高周波水分計 HI-540/520-2(※) の D.MODE（厚さ40mm程度、温度AUTO）または同等の方法で、外周部、開口部、柱回り、湿気が疑われる箇所を含む複数地点を測定し、位置と値を記録してください。

※ケット科学研究所社製

D.MODE測定値	水分グレード	施工方法の目安
440未満	I	施工可能です。コンクリート下地の場合は、下貼りにシートを敷設してください。 → 8. 防湿・防水シートの敷設
440以上620未満	Ila	原則施工を見合わせてください。乾燥または適切な防湿対策後に再測定してください。
620以上	Ilb	施工できません。下地が乾燥するまで施工しないでください。
数値にかかわらず漏水・結露・継続的湿気上昇あり	—	施工できません。原因解消後に再判定してください。

下地の高湿度が判明している場合は、床材を施工する前に対策してください。湿気は換気の悪い部屋でカビの原因となり、過剰な湿気は圧力上昇を引き起こして、長期的に床材や建物へ影響する可能性があります。

6.3 コンクリート下地

- ・本製品は、地上、地上階および地下のコンクリート下地に施工できます。
コンクリート下地に施工する場合は、防湿・防水シート（0.15mm厚以上のポリエチレンフィルム防湿シート等）の敷設が必要です。
- ・下地は硬く、密で、粉化や剥離がない状態にしてください。
- ・新設コンクリートスラブは少なくとも60日間乾燥させ、完全に硬化させてください。床材施工に十分な乾燥状態かどうかの最終判断は、床仕上げ施工者の責任とします。
- ・穴、溝、施工目地、コントロールジョイント、その他の凹部は、適切な適切なパテ（補修材）※で充填し、周囲面と段差がないよう平滑に仕上げてください。
※推奨：推奨：ヤヨイ化学工業株式会社 アースタック／アースシール速硬
- ・構造的な動きがある伸縮目地は、先に構造上の処置を行い、必要に応じて床材側にも見切りを設けてください。可動目地を安易に剛性材料で拘束しないでください。

6.4 木質下地

- ・本製品は、損傷のない木質下貼り材・下地材の上に施工できます。
- ・鳴きや動きを避けるため、下貼り材はメーカー推奨に従って確実に固定してください。
- ・木質下地は平滑、乾燥かつ健全で、たわみ、床鳴り、パネルの動きおよび釘・ビス頭の突出がないようにしてください。

6.5 既存床材への施工

- ・単層の弾性シート床・タイル、セラミック、大理石、テラゾー等、各種の既存仕上げ床の上に施工できます。
- ・セラミックタイルや大理石の目地は、タイル表面と面一になるように均してください。平滑面を得るため、数回の薄塗り補修が必要になる場合があります。
- ・既存床の表面は良好な状態で、過剰な湿気の兆候、浮き、膨れ、剥がれ、柔らかさ、ワックスおよびコーティングがないようにしてください。
- ・ゴム、コルク等の厚いクッション性がある床、カーペット、カーペットタイル、または地下レベルのコンクリート上に施工されたタイルの上には施工しないでください。
- ・既存の木床またはラミネート床は、湿気による伸縮がSPC床材へ伝わる可能性があるため、撤去を推奨します。特に湿気が到達する可能性がある場所では撤去してください。
- ・リノリウム等の古い弾性床材は、アスベストを含む可能性があるカットバック接着剤で施工されている場合があります。古い床材や接着剤を除去する前に、専門家へ相談してください。

6.6 石膏系下地

本製品は石膏系下地にも施工できます。下地メーカーの仕様に従い、平滑、乾燥しており、損傷がなく、必要な強度を備えていることを確認してください。

7. 下地補修・清掃

1. ひび割れ、欠損、不陸、段差、合板の継ぎ目、コンクリートの施工目地・コントロールジョイント、凹みおよび溝を適切な補修材で修正してください。構造的な動きがある場合は、先に構造原因を解消してください。
2. 脆弱層、塗膜、ワックス、既存接着剤その他の汚染物を研削・除去してください。
3. 補修材を所定時間硬化・乾燥させ、水分、平滑性、強度を再確認してください。
4. 集じん機で除塵し、油分等がある場合は適切に脱脂してください。水拭きした場合は完全に乾燥させてください。
5. 下地表面および周辺を清掃し、切粉、砂、粉じん、ビスその他の異物を残さないでください。
6. 他業者の作業が続く場合は、施工区域と搬入経路を区分し、施工中・施工後の床材損傷を防いでください。

8. 防湿・防水シートの敷設

本製品は防水性がありますが、床材自体は防湿機能はありません。コンクリート下地に施工する場合は、防湿・防水シート（0.15mm厚以上のポリエチレンフィルム防湿シート等）の敷設が必要です。

1. 敷設前に下地が平滑、清浄、乾燥していることを再確認する。
2. シートは連続して敷設し、隙間、破れ、穴、しわ、折れおよび浮きがないようにしてください。
3. 継ぎ目の重ね幅、テープ処理、立上げおよび端部処理は、使用するシートの仕様に従ってください。
4. 柱、配管、開口部等の周囲は隙間や破損が生じないように納めてください。
5. シートの下または上に切粉、砂その他の異物を残さない。防湿・防水シートを下地不陸の補正材として使用しないでください。
6. 床材施工中にシートを損傷した場合は、その区画の施工を中止し、仕様に従って補修または交換してください。

9. 割付け・墨出し・仮並べ

1. 部屋寸法、壁の出入り、柱、開口部、玄関、長い廊下、キッチンアイランドおよび見切り位置を実測してください。
2. 板材の施工方向を決めてください。部屋を広く見せたい場合、または小さな部屋や廊下では、部屋の最長寸法に平行に張ることが望ましいです。
3. 迷う場合は、通常もっとも直線性が高く、基準にしやすい外壁から施工を始めてください。
4. 部屋の直角精度と最終列の幅を測定してください。最終列の幅が約51 mm未満になる場合は、第一列の幅を切り詰めて調整します。
5. 玄関、長い廊下、キッチンアイランド等、床が壁と平行であることを重視すべき視覚的な焦点を事前に想定し、その場所でも平行を維持できるよう第一列を調整してください。
6. 床材の上にシンク下キャビネットや固定物を設置しないでください。床材の質感により水がキャビネット下へ漏れる可能性があり、また固定物が伸縮スペースを制限します。アイランドキッチン等は下地へ固定し、床材はその周囲に伸縮スペースを確保して納めてください。
7. 周囲の壁、柱、配管、固定物および隣接する床との間に、約6 mmの伸縮スペースを確保してください。
8. 約30 mを超える連続した長手方向の空間へのクリック床材施工は推奨しません。暖かい環境にさらされる場所では特に注意し、中間見切り材で施工範囲を分割してください。
9. ドア枠は床材と防湿・防水シートの厚みに合わせて切り欠いてください。切込みに時間を要する場所は、施工前に可能な範囲で加工・段取りを行ってください。

10. クリック施工

10.1 基本方針

- ・本製品は、フローティング工法で施工するよう設計されています。
- ・床材を釘、ビス、接着剤等で下地へ固定しないでください。
- ・周囲に適切な伸縮スペースを確保してください。
- ・すべてのドア枠を切り欠いてください。
- ・壁モールディング、巾木および見切り材を床材や板材に固定しないでください。
- ・クリック機構を直接ハンマーで叩かず、必ず適切なタッピングブロックまたはプルバーを使用してください。
- ・施工中はクリック機構を確認し、適切な組立てを妨げるごみや切粉を除去してください。

10.2 施工ステップ

工程	作業内容	確認ポイント
Step 1	左から右へ施工を開始してください。板材が壁に接する端部および長辺にスペーサー（6mm程度）を入れます。	約6 mmの伸縮スペースを維持する
Step 2	板材の短手側をロックしてください。実（さね）を溝へ約15～20°の角度をつけて差し込み、下ろして固定し、列の端まで続けます。	短手目地に段差や隙間がない
Step 3	1列目の端材を2列目の開始材として使用できます。隣接列の短手目地は200mm以上離してください。	目地ずらし条件を満たす
Step 4	2列目以降は、板材の短辺をすでに設置されているパネルの短辺に角度をつけて差し込みます。次に、短辺の接合部近くにあるパネルの長辺（持ち上がっている側）の下に両手の指を入れ、パネルを20～30度の角度に持ち上げます。そのままパネルをしっかりと持ち、手前に引くと、長手側がロックされます。	長手クリックが均等に入っている床面と床材に浮きがないこと ※浮きがある場合はクリックが適切ではない。
Step 5	ゴムハンマーとタッピングブロックを使い、軽く叩いて密着させてください。	隙間を残さない

Step 6	Step 4.5を繰り返します。	
Step 7	列の最後の板材は、ゴムハンマーとプルバーでロックしてください。列端にスペーサーを入れ、最終列まで施工を続けます。	壁際の伸縮スペースを維持する
Step 8	最終列では、ゴムハンマーとプルバーを使って板材の長手側をロックしてください。	最終列に隙間、段差、拘束がない

重量に関する注意：本製品の板材は約4.5 kg超で、一般的なビニルプランクの約2倍、一般的なラミネートプランクの3倍以上の重量です。十分な重量のゴムハンマーと、荷重を十分に分散できるタッピングブロックを使用してください。重量のある板材のため、不適切な工具や無理な嵌合・打撃によるクリック機構の欠け・破損は、施工上の過失となり製品保証の対象外となります。

10.3 ドア枠下への施工

- ・床材の端材を使い、ドアケーシングおよび巾木を適切な高さで切り欠いてください。
- ・割付けに応じて、最後の板材をプルバーでクリック固定してください。
- ・または、最後の板材と隣接板材のクリック機構を切り落として接着し納める方法もあります。

11. 仕上げ・養生・完了検査

11.1 仕上げ

- ・すべての板材の施工が完了したら、部屋周囲のスペーサーを取り外してください。
- ・見切り材を設置してください。ただし、見切り材を床材に貫通固定しないでください。
- ・巾木を必要に応じて下穴あけの上で取り付けてください。巾木は約6 mmの伸縮スペースを覆える十分な厚みを選定し、床材ではなく壁に固定します。
- ・巾木、見切り材等で床材の動きを拘束していないことを確認してください。

11.2 養生・搬入

- ・他業者の作業中に床を保護するため紙を床にテープ固定する場合は、弱粘着タイプのマスキングテープ等を使用してください。その他のテープは仕上げを傷める可能性があります。
- ・家具や家電は、硬質ボードの通路上で家電用台車を使って新しい床の上に移動させてください。
- ・すべての家具にフェルト保護材を使用してください。
- ・施工後は、温度約－18～60℃、相対湿度40～70%を維持してください。

11.3 完了検査

- ・外観、色柄、施工方向、目地の通り、段差、隙間、端部および切込み部の納まりを確認してください。
- ・クリック機構が確実に嵌合し、周囲の約6 mmの伸縮スペースが確保され、巾木・見切り材で拘束されていないことを確認してください。
- ・床面を清掃し、傷、汚れ、切粉、養生材の残りが無いことを確認してください。
- ・使用製品、ロット、下地水分、施工時の温湿度、特殊条件および必要な写真を記録してください。

12. 施工中に異常を認めた場合

1. 該当区画の施工を直ちに中止してください。
2. 異常の範囲を区画し、歩行、搬入および他業者の作業を制限してください。
3. 床材、クリック機構、下地、防湿・防水シート、温湿度、施工時刻を記録し、写真を撮ってください。
4. 原因が特定できない状態で、無理な再嵌合、加熱、局所固定、上貼り等の応急処置を行わないでください。

5. 原因を除去し、下地、材料、防湿・防水シートおよび施工環境の条件を再確認してから再開してください。

13. メンテナンス

- 定期的に掃き掃除・掃除機掛けを行ってください。ほこりは研磨材のように作用するため、床をほこりのない状態に保つことで、仕上げ層と摩耗層の寿命を延ばせます。
- 屋外入口には足拭きマットを設置し、室内に持ち込まれる汚れを減らしてください。
- 回転ブラシ掃除機は使用しないでください。使用する場合は回転ブラシをオフにしてください。
- 家電や重い家具を移動する際は、床保護のためパーティクルボード等の硬質ボードを敷いてください。
- 家具にはフェルト保護材を使用し、へこみを軽減させてください。一般的に重い物ほど広い床保護材が必要で、直径25 mm以上のフェルトパッドを推奨します。
- キャスターは床を傷める可能性があります。使用する場合は、可能な限り幅広の車輪を選んでください。
- 床材を長時間の直射日光にさらさないでください。日射が強い時間帯はカーテンやブラインドで直射日光を最小限にします。過度な高温は弾性床材に適さないため、空き家では自然換気または定期的な空気の入れ替えを検討してください。
- 床材にワックスをかけたり、油性吸着剤付きのモップ等を使用したりしないでください。床表面は非常に緻密で非多孔質であるため、ワックスが浸透せず、黄変や汚れの蓄積の原因となります。非多孔質性自体が、摩耗や汚れに対する保護性能を備えています。

株式会社TBM

URL. <https://tb-m.com/>

RECO2 カーボンリサイクルSPC床材
施工マニュアル

2026.8 A1版